

# 平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	企画財政部プロジェクト推進担当	直通電話	72-3192	事業コード	103050101	課内	3	作成日	平成15年8月11日
		担当者	板谷 英郁	担当課長	清水 雅季	担当部長			野 昭夫

## 1 事業のアウトライン

1) 事業名	循環バス運行検討事業	開始年度	H11	終了年度	未定								
		最近の事業内容見直し年度											
2) 総合開発計画での事業体系	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%;">施策コード</th> <th style="width: 90%;">大項目 / 小項目 / 細項目</th> </tr> <tr> <td>1030501</td> <td>道路、交通網の整備 / 公共交通機関の充実 / バス路線の充実</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>					施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目	1030501	道路、交通網の整備 / 公共交通機関の充実 / バス路線の充実				
施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目												
1030501	道路、交通網の整備 / 公共交通機関の充実 / バス路線の充実												
3) 個別計画での位置付け	石狩市都市マスタープラン(4. 総合交通体系の方針の中に、循環バス導入の検討を位置付け) 石狩市総合交通体系基本計画(地区内移動が円滑に図れるような公共交通機関の設定を位置付け)												

## 2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	都市生活の利便を向上させる循環バスの導入を検討するため。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	できるだけ多くの人に利用されるよう、最適なルート、便数などを見出せるようにする。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	公共施設、商業施設、医療機関などが集中する花川地区において、社会実験として2方向に循環するバスを運行し、次の項目のデータを収集、解析し、本運行した場合の傾向を明らかにする。 ・全乗客者の乗降場所、総乗車人数、1便当たりの乗車数などのデータを収集 ・利用者(乗車客全員への葉書調査)及び非利用者(公共施設、商業施設の来客者に聞き取りによる調査)の循環バスに関する意識調査及び解析
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	運行期間について、前年度の夏季31日間、冬季30日間の計61日間から、利用者の多い冬季90日間の長期連続運行に変更し、本運行の形態に近づけ、より精度の高いデータを得るようにした。
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	全国的に、公共交通の利用が不便な地域での新しい移動手段として、循環型のコミュニティバスの導入が進んでおり、市長の公約の一つである。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	利用者、非利用者意識調査により利用者ニーズを把握した。
7) 評価中間公表への市民意見	なし

## 3 事業に投入した行政資源

項 目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)	2,247	5,259	5,935	0	実験運行に関する助成金	5,235
2) その他の間接経費(千円)	445				調査解析業務委託	672
3) 従事正職員の人件費(千円)	7,395	4,145	8,234		事務経費	28
総事業費(1~3の合計;千円)	10,087	9,404	14,169		<b>H14 主な特定財源の内訳</b>	
総事業費中の一般財源(千円)	9,642	6,822	11,216		国土交通省所管国庫補助金	2,953
市民一人当たり一般財源使用額(円)	174	123	201			
事務に従事した正職員のべ人数	0.90人	0.50人	1.00人			

## 4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法
実験運行の日数(日)	目標値	30	61	90	年度ごとの運行計画日数を目標値とした。
	実績値	30	61	90	
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	
利用者・非利用者意識調査回数(回)	目標値	1	1	1	毎年1回利用者・非利用者意識調査を実施することを目標とした。
	実績値	1	1	1	
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	
PR回数(回)	目標値	2	2	3	ポスター、広報、町内会回覧版によるPR活動をそれぞれ1回として目標値を設定した。
	実績値	2	2	3	
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	

## 5 事業の成果

事業名：循環バス運行検討事業

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
一便あたりの利用者数(人)	目標値	20	20	20		本運行するための目安として、先進都市の中で、利用率の高いものから目標を設定した。	H14循環バス実験運行事業調査報告書
	実績値	7	10	18	目標レベル		
	達成率	36.8%	49.5%	89.9%			
	最終目標	年度に					
一便あたりの運賃収入(円)	目標値	未設定	未設定	1,826		本運行するための目安として、車両費とバス整備費を除く運行経費を算出し、その1/2を運賃収入の目標値とした。	H14循環バス実験運行事業調査報告書
	実績値	575	939	1,746	目標レベル		
	達成率			95.6%			
	最終目標	年度に					
循環バスの継続を望む回答者数(人)	目標値	未設定	未設定	500		H14はH13の1.5倍の運行期間としたことから、H13の回答者数の1.5倍を超える回答者数を目標値とした。	H14循環バス実験運行事業調査報告書
	実績値	399	318	665	目標レベル		
	達成率			133.0%			
	最終目標	年度に					

## 6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	計画どおり実験を行い、目標とした結果がほぼ得られたことから、事業活動は概ね良好である。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	一便あたりの利用者数及び一便あたりの運賃収入は目標レベルには達してはいないものの着実に伸びてきていること、また、循環バスの継続を望む回答者数は目標レベルをクリアしたことなど、事業の成果から判断すると、当該事業は有効かつ必要である。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	本市の実験運行の結果や全国の運行事例から、ワンコインによるバス運行の採算性についてはいずれも難しい状況にあり、本運行化の可能性を明らかにする社会実験の実施は、バス事業者の協力を得、市及び利用者が応分の負担をし実施することが必要なことから、市の関与は一定の妥当性がある。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	本運行化の検討では、より現実に即したデータを得るとともに、利用者ニーズを的確に把握したなかで、最適な運行形態を見出し、将来性を見極めた上で実施することが必要であることから、事業内容は一定の妥当性がある。				

## 7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	B	[最終評価]	B (前年度)
	本運行化の検討で必要となる各種データが取得でき、運行課題もほぼ明確化できたことから、事業全体として良好である。		参事評価を了承する。	

## 8 今後の方向性・課題

担当課長評価	今後、本運行化にあたっては、得られたデータをもとに、都市生活を便利にする最適な運行を目指すとともに、持続可能な事業としていくため、受益者負担のあり方の明確化とその管理方法を明らかにしたなかで事業を進める必要がある。
最終評価	「財源の裏付け」、「事業コスト」、「受益と負担」など、基本数値を明確にした上で取組むことが絶対条件であるが、参事評価を了承する。

## 9 平成16年度の方向性

* : 担当課長 : 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		*
	現状維持		
	縮小方向		
	統 合		
	休・廃止		
上についで の説明	[課長] 運行形態を見直し利便性を向上させる。運行期間の増に伴う予算の増額。		

**(付表)**  
**補助・負担金等事業内容整理表**

担当部課： 企画財政部プロジェクト推進担当

事業名： 循環バス運行検討事業

1 補助・負担相手方の概況

補助・負担金名称	循環バス実験運行に関する助成金
支出相手方(名称、代表者、構成員)	北海道中央バス(株) 取締役社長 菊池正平
活動(事業)目的	循環バスの実証実験運行

2 補助・負担相手方の財政状況等

(単位:千円)

		H12決算		H13決算		H14決算		H15予算	
		全体	補助対象	全体	補助対象	全体	補助対象	全体	補助対象
歳出決算 (予算)状況	人件費	1,170	1,170	3,623	3,623	5,306	5,306		
	燃料油脂費	217	217	439	439	643	643		
	車両修繕費	20	20	198	198	289	289		
	印刷製本費	0	0	124	124	184	184		
	諸経費・消費税	567	567	1,160	1,160	1,642	1,642		
	歳出合計	1,974	1,974	5,544	5,544	8,064	8,064		
歳入決算 (予算)状況	循環バス実験運行に関する助成金	1,727	87.5%	4,513	81.4%	5,235	64.9%		
	運賃収入	247		1,031		2,829			市の補助負担金への依存度
	歳入合計	1,974		5,544		8,064			
補助・負担対象経費の内容	運行に要する経費 - 運賃収入								
補助・負担金額の算定方法	補助対象経費の全額								

3 補助・負担相手方の活動状況

活動結果を示す指標名	H12実績	H13実績	H14実績	H15目標
運行日数(再掲)	30(日)	61(日)	90(日)	
輸送人数	3,643(人)	10,856(人)	29,132(人)	
平成14年度活動(事業)実績	バス運行 90日×9便×2台			

4 特記事項

平成12年度の運賃収入247千円は、実運賃収入345千円から98千円(影響額として考えられる路線バス初乗り運賃との差額分)を控除した額である。